

令和7年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和7年4月 1日
 至：令和7年9月 30日

令和7年12月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	1
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	1
	2. 学校関係者評価委員名簿	2
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	4
	4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	5
II	学校関係者評価報告書の見方	6
III	学校関係者評価委員会 評価結果報告	7
	総評	7
	令和7年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見	
	○学校の近況	9
	○NEXT10「日本電子専門学校さらなる伸張」	11
	1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」	
	2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実	
	3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討	
	4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用	
	○教育全般の重点項目	15
	1. 学校教育法の改正に伴う単位制への移行	
	2. DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」	
	○総合評価【学校の改善に資するご意見】	17
IV	学校関係者評価委員会議事録	19
	○全体会自由意見	22

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和7年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、令和6年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和7年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ② 第2回目(11月)に実施する委員会は、令和7年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏 名	所 属	役 職
企 業	鈴木 周祐	株式会社スタジオぴえろ	管理本部 人事総務部統括課長
	後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	第4研究開発室 室長補佐
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	顧問
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	宮内 舞	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 教育推進グループ
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	EMA 認定センター センター長
	西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	管理課課長
	米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	交流推進本部 人財交流委員会
高校教員等	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	Program Coordinator
	横田 えりか	株式会社ウィザス (第一学院高等学校)	教育運営部 CSC 室長
日本語学校	亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ソリューション 統括本部
	大曾根 良孝	日本電子専門学校同窓会	理事

ご家族・ 保証人	高橋 美登里		
	岸本 美香		
	岡本 忠司		
	田野 滋子		
	森 清子		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	下園 紗月	アニメーション研究科	2 年生
	森下 晴紀	情報処理科	2 年生
	岩永 礼矢	高度情報処理科	2 年生
	伊東 凜	学生自治会 会長（ゲーム制作研究科）	2 年生
	小倉 昊太郎	ゲーム制作研究科	1 年生
	葛巻 沙織	CG 映像制作科	1 年生
	埜村 萌花	ネットワークセキュリティ科	1 年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和7年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和7年12月1日(月) 15:00 から 17:00

場所：日本電子専門学校 メディアホール

2) 学校関係者評価委員会実施方法

対面及びオンライン会議システム(Microsoft Teams)を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡(スケジュール、事前配布資料確認) 15:00～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介(日本電子教職員、評価委員)

(4) 評価方法説明

(5) 議長(委員長)選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 15:20～

令和7年度教育重点項目 前期実施報告

・学校の近況

・NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・教育全般の重点事項

5. 学校教育法の改正に伴う単位制への移行

6. DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと
新たな未来」

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

(7) 全体自由意見 16:30～

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第二回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和7年度昼間前期（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は令和7年度における「学校の近況」および「教育重点項目」6項目の計7項目であった。

2) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。



学校法人 電子学園
日本電子専門学校

令和7年度 第二回学校関係者評価委員会 評価

令和7年度教育重点項目 前期実績報告

[Googleにログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

***必須の質問です**

メールアドレス *

御名前 *

次へ

フォームをクリア

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 28 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価結果について、学校関係者による評価を行い、その客観性および透明性を高めるとともに、理解促進や連携・協力を通じて、学校運営の継続的な改善に資することを目的として設置されています。

令和7年度第二回学校関係者評価委員会は、規定に基づき「運用状況の中間報告会」として、令和7年12月1日に開催いたしました。今回の委員会は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施し、校長および教育部署長より「学校の近況」および6つの「教育重点項目」について中間報告が行われました。

評価にあたっては、企業・業界団体・卒業生・保護者・地域住民・高等学校教員（日本語学校を含む）・在学生など、委嘱を受けた委員28名が参加し、それぞれの立場から学校担当者の報告に基づき、各項目の取り組みが「十分」か「不十分」かを判断しました。

<教育重点項目に関する中間報告>

令和7年度教育重点項目 前期実績報告の評価結果は以下の通りです。

- ・ 令和7年度教育重点項目 前期実績報告
 - (1) 学校の近況（十分：28、不十分：0）
- ・ NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」
 - (2) 建学の精神の実現に向けた「教育の質の保証・向上」（十分：28、不十分：0）
 - (3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実（十分：28、不十分：0）
 - (4) 新設学科開発フレームを活用した調査・検討（十分：28、不十分：0）
 - (5) 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用
(十分：28、不十分：0)
- ・ 教育全般の重点項目
 - (6) 学校教育法の改正に伴う単位制への移行（十分：28、不十分：0）
 - (7) DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」
(十分：28、不十分：0)

以上の結果から、すべての重点項目において「十分」との評価が示され、日本電子専門学校の取り組みが委員から総合的に高く評価されていることが確認されました。委員から寄せられた意見・コメントにおいても、学校の継続的な努力と具体的な成果を評価する声が多く見受けられました。

特に、学修成果の可視化に関する取り組みについては、成果が見える化されたことを評価する意見が多くありました。一方で、その成果を学生自身の学びにどのように還元し、学習意欲の向上や成長実感につなげていくかという観点から、今後のフィードバックの在り方が重要であるとの指摘もありました。これらの点を踏まえ、さらなる工夫と実践が進められることを期待します。

また、単位制への移行に関する説明を通じ、学校が学生一人ひとりの学びに十分な時間と配慮をもって教育に取り組んでいることが、改めて確認されました。単位制の柔軟性を活かし、学生が就職に向けて必要な学びを主体的に選択・定着できる仕組みとして発展させていくことを望みます。併せて、中期計画の着実な推進にも大きな期待を寄せるものです。

本委員会としては、今後も引き続き日本電子専門学校教育活動および学校運営の改善に向け、積極的に協力していく所存であることをここに表明し、本報告書の総評といたします。

学校関係者評価委員会
委員長 鈴木周祐

令和 7 年度 第二回学校関係者評価委員会

令和 7 年度教育重点項目 前期実績報告

・学校の近況

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① CISC0 の世界大会をはじめ、各種大会にて大変な成果をあげられているのは非常に素晴らしいと思います。また、様々なところで継続して評価されているのは、教職員の皆様方大変な努力のもとに成り立っているものだと思いますので、十分としました。(伊藤) ←十分
- ② 学生の成果を多くお伺いできて、とてもありがたいです。活発な活動実績があり、活き活きしていると感じます。(鈴木) ←十分
- ③ とても身になる活動をされていることがよくわかりました。中長期的なものもあるとは思いますが、実施したことで、教育にどのように生かされているのかを聞けると良いと思いました。特に通例のものは毎年同じ感じになりがちなので、新しい学びや取り組みがあると良いと思いました。(後藤) ←十分
- ④ 学校関係の取り組みの充実に加え、学生の皆さんの各種大会への参加並びに受賞されている実績は大変素晴らしいと思います。特にネットワーク技術やゲーム系のクリエイターたちの躍進は目を見張るものがあるのでは、と感じました。クリエイティブを担務させていただいている私としては、グラフィックおよびウェブ系の学生の更なる活躍を期待します。(木下) ←十分
- ⑤ ゲームクリエイター育成のためのカリキュラム開発や次世代の学び基盤プロジェクトなど、新しいことに向けた取り組みがされており、今後が非常に楽しみです。また、相変わらず Cisco 大会や若年者モノづくり競技大会、技能五輪等での活躍・実績、大学との共同開発など、楽しく取り組みされていることがわかり、十分な結果と思います。(佐々木) ←十分
- ⑥ 省庁や他学校とも密に連携し、積極的に人材育成に取り組まれていると感じました。多様な活躍の場を学生さんに提供されている点も素晴らしいと感じました。(宮内) ←十分
- ⑦ 香川県 善通寺市の産官学連携における IT 分野での協力とはこういった内容でしたでしょうか。(中野) ←十分
- ⑧ 短期間に多くの活動をされていたことがよく分かりました。日本を代表する IT 系専門学校として教育活動を通じて、多くの優秀な学生を輩出して頂きたいと感じました。(満岡) ←十分
- ⑨ 学校教育法の一部を改正する法律から、時間制から単位制への移行など様々な変更があるようですが順調にすすんでいることと思われます。貴校におかれましては、文化芸術活動基盤強化基金採択、東京都立通信制高等学校におけるデジタルスキルアップ講座運營業務委託契約を締結など多くのチャレンジが伝わりました。

また、学生も様々な国内、国外の大会において優秀な成績を収められた点は素晴らしいと思います。最後となりますが、多忠貴理事長が文部科学大臣より「専修学校教育功労者」として表彰とのこと誠におめでとうございます。（舟山）←十分

- ⑩ 単位制移行については大変わかりやすい説明で正しく理解できました。多分野で学生が優秀な成果を上げていることがよくわかりました。（米井）←十分
- ⑪ 各種大会やプロジェクトなど、学生の活躍の場がしっかり確保されていて素晴らしいと思います。東京都や文科省からも教育の質が認められているのだと感じました。（横田）←十分
- ⑫ 各コンテストやイベントなどの参加、学生さんの積極的な活動が感じられました。参加学生に留学生がどの程度含まれているのかも少しうかがいたかったです。（亀田）←十分
- ⑬ 学内外を問わず、様々な事（分野）への挑戦には苦労も多い事かと思いますが、頑張ってください。そしてその成果が学生へ還元される事を願います。（大曽根）←十分
- ⑭ 生徒が頑張っていて輝いている。（岡本）←十分
- ⑮ 長年にわたり、沢山の未来ある子供達の育成とご功労に感銘を受けました。（田野）←十分
- ⑯ 私たちの知らない学校の近状が知れて良かったです。（埜村）←十分

・NEXT10「日本電子専門学校さらなる伸張」

1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 可視化の取り組みは非常に興味深いです。PROGの結果がどのようなものになるのか、非常に興味深いと考えております。(伊藤) ←十分
- ② 省令の遅れにより遅延は残念ですがいかんともしがたい事態ですね。アニメ関連学科でも実施されるようになり、学生が学修成果を可視化されるのを楽しみにしています。(鈴木) ←十分
- ③ ジェネリックスキル診断は統計だけでなく個人の結果も学生にわたると良いと感じました。(後藤) ←十分
- ④ 現時点では計画段階ということで問題はないだろうと思います(木下) ←十分
- ⑤ 学生主導で主体性をもって行事などを企画・運営することは簡単ではないと思いますが、将来のキャリアや社会人に向けて非常に意義のある活動だと思いますので、今後も是非検討や実施に向けた取り組みを継続されると良いかと思います。(佐々木) ←十分
- ⑥ リテラシー、コンピテンシーにおける留学生の診断結果が真逆な点が興味深かったです。(宮内) ←十分
- ⑦ 文科省の発出遅延により、進捗が無いのは仕方ないことだと思います。PROGによる可視化は興味深いです。学校の価値・教育内容の効果を図る上で、重要かつ入学生募集活動に役に立つ気がしました。(満岡) ←十分
- ⑧ 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」について、学修成果の再設定プロジェクトに関しては、諸事情によりディプロマサプリメントによる学修成果の可視化は進んでいないこと(外部要因なので仕方ないですね)、ジェネリックスキル診断「PROG」を活用し基礎的・汎用的能力を測定し分析する点は非常に面白い結果がでており、今後このグラフがどのように変化するか楽しみです。(舟山) ←十分
- ⑨ こうした取り組みをしていること自体が高く評価できると思いますので、評価結果は「十分」とさせていただきます。ディプロマサプリメントは学生にとって一定の指針になると思います。学生が主体的に学ぶきっかけになることを期待したいと思います。現状の評価項目は大きな括りですので、このまま世間一般の評価と整合性をとるのは難しいかもしれませんが、今後改善されていくことを期待したいと思います。(米井) ←十分
- ⑩ 独自の評価項目で学生のスキルを可視化しようとしている点が素晴らしいと思いました。(横田) ←十分
- ⑪ ディプロマサプリメントにより可視化がしやすくなったのはとてもありがたいです。(埜村) ←十分

2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 学生の方々の活動は留学生の巻き込みが課題ということですが、学生の主体的な活動に関して評価できると思います。(伊藤) ←十分
- ② 地域連携はとても良いと思います。学外の社会人と接点を多く持つことで、専門学校生に不足しがちな社会性を身につけることができるなと感じました。
(鈴木) ←十分
- ③ テーマに沿って精力的に活動されていることがわかりました。地域とつながることはとても良いと思います。(後藤) ←十分
- ④ 多様性文化の体験については更なる充実を図っていただきたい。(木下) ←十分
- ⑤ 学生の自主性を育成する様々な試みが実施されていると感じた。(宮内) ←十分
- ⑥ 学内活動を超えて地域との取り組みは、学生経験としても価値のある時間だったと感じます。大学では大規模がゆえに地域取り組みはあまり耳にしません。専門学校特有の規模・距離感で地域活動をすることで、社会人基礎力の向上が期待できると感じました。(満岡) ←十分
- ⑦ 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実は、1 学生自治会の適正運用、2 学生主体の学校行事の在り方の検討、3 クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること、の各課題や下半期への解決の方向もそれぞれよく理解できました。(舟山) ←十分
- ⑧ 学生が授業以外にも取り組める環境があることは良いことだと思います。社会人基礎力は人によって理解が違ふと思いますので、キャリア教育や社会人基礎力の定義が曖昧だと評価しにくいなと思いました。PROG にも一般的な社会人基礎力に含まれるような内容がありますし、今回の報告は、「学生の主体的な取り組みのみが、社会人基礎力」としているように受け取りました。(米井) ←十分
- ⑨ 100 名もの学生が自治会に所属しているとのことで、社会に出た時にも役に立つスキルが身に着くと感じました。(横田) ←十分
- ⑩ 2 年制課程の学科が多い中、学生が中心となり積極的に活動する事は、卒業後の社会人基礎力に必ず役立つ事だと思います。(大曾根) ←十分
- ⑪ 学生主導で新しい事に挑戦し経験し、自主性と想像力を学べたのではないかと思います。非常に良い取り組みだと思います。(田野) ←十分
- ⑫ 学生自治会などを中心に活動を行うことで学生が自ら取り組むことができると感じた。(埜村) ←十分

3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 十分かと思います。(伊藤) ←十分
- ② 単位制移行に関連した対応はなかなか難しいと思いますが、引き続きよろしくお願ひします。(鈴木) ←十分
- ③ 先を見据えて良い準備をされていると感じました。(後藤) ←十分
- ④ 仕組みと方針は素晴らしい。あとは実践に期待したい。(木下) ←十分
- ⑤ 2026 年度のカリキュラムが策定されたとのことで、今後の変化が楽しみです。「就職に強い、面倒見がいい」という貴校らしさを大切にされている点も素晴らしいと感じました。(宮内) ←十分
- ⑥ 「④高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施」に関して、どのような講座を実施したのかを知りたかったです。(満岡) ←十分
- ⑦ 新設学科開発フレームを活用した調査・検討については、まず方針については「日本電子らしさ」が明確であることがわかりました。また、外部要因での遅れなども理解できました。さらに、新設学科への環境づくり、リスキリングへの進捗も順調に思いました。高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施も、満足度 4.7 点(5 点満点) 高評価を得られており、さすがだと感じております。(舟山) ←十分
- ⑧ 高校・日本語学校教員対象講習会の内容を知りたいと思いました。(横田) ←十分
- ⑨ 新設学科への運用の目処をしっかりと知ることが出来た。(埜村) ←十分

4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ナレッジ共有、ベストプラクティスの整備の効果が出ていると感じました。今後の情報更新などが肝になってくるかと存じますが引き続きよろしくお願いします。
(伊藤) ←十分
- ② ベストプラクティス集はかなり視認性も良く、とても力を入れられていると感じました。感心しました。(鈴木) ←十分
- ③ ナレッジベースを残し続けているのはとても良いと思います。(後藤) ←十分
- ④ 十分と思われます。(木下) ←十分
- ⑤ ベストプラクティス集、とても良いですね。ベストプラクティスやナレッジは非常に有用な情報となり、現場で多くの方の参考になると思います。(佐々木) ←十分
- ⑥ ツールを継続的に運用し、効果測定まで取り組まれている点から、より効率的に学習が進められていると感じました。また、情報共有によって先生方の横連携も進んでおり、この取り組みが着実な成果につながっていくのではないかと思います。
(宮内) ←十分
- ⑦ ナレッジベースの蓄積はとても効果的だと思います。またメンテナンスに留意しないと、誤った情報が溜まったままになってしまうのでメモ等でのフィードバック機能があればなおいいと思います。他学科導入等展開する後期に期待しております。(満岡) ←十分
- ⑧ 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用に関しては、コロナ以降の課題である遠隔授業に対して、教員間で共有を図る、活用していく(ベストプラクティス作成)、学生からのフィードバックを受けるなどの、PDCAが回る仕組みができているところは感心しました。同時にAIを活用した運用など先端テクノロジーを活用している点は大変勉強になりました。(舟山) ←十分
- ⑨ 先生方の負担軽減につながる取り組みに期待します。(米井) ←十分
- ⑩ プログラミング学習用 LMS の展開により先生方の目を学生に向けられるので良いと感じた。(埜村) ←十分

・教育全般の重点項目

1. 学校教育法の改正に伴う単位制への移行

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 単位制に移行することで学生さんへの影響も多いと思います。良い影響はもちろんですが、進捗いかんで既存の学生は振り回されてしまうこともあるかと思うので、引き続きご対応をお願いします。教育の質を下げずに実施することと柔軟性のバランスとても難しいとは思いますが、頑張ってください。（鈴木）←十分
- ② 学校側も色々と検討対策がいると思いますが、学生が単位取得が目的にならないようにする施策が必要かもと感じました。（後藤）←十分
- ③ 単位制への改訂、変更が悩ましいところですが、先生方の尽力に期待したいと思います。（木下）←十分
- ④ 単位制への移行にあたり、在学生と新入生それぞれの学びをケアしながら、段階的に新カリキュラムへ移行していく計画を伺いました。自分自身、単位制について理解しきれていない部分もあったため学びになりました。（宮内）←十分
- ⑤ 単位制への移行は、非常に大きな制度への変化だと思います。単位取得判断をどうするかが気になりました。出席数で単位取得を定義すると習得レベルを図ることは出来なくなるため、何らかのテストが必要になると思います。個々の教員で難易度/判断基準にばらつきも出る可能性があるため、「面倒見が良い」部分によって逆に教育水準向上が出来たら素晴らしいと思います。（満岡）←十分
- ⑥ 時間制から単位制への変更は、日本電子らしさを失わないように配慮されていると感じました。一時の間時間制・単位制双方の運用をしなければならないため大変だと思いますが、頑張ってください。（舟山）←十分
- ⑦ 単位制移行で想定される問題点を十分に検討されていると判断します。3年で140単位は、年48単位になりますが一般的な大学の1年間の履修上限の数値なので、これはなかなか大変かもしれません。（米井）←十分
- ⑧ 単位制に向けてのご準備についてわかりやすくご報告をうかがいました。しばらくは移行期間だと思いますが、次回は単位制を実際に始めてみて見えてきた利点、弱点などについてのご報告をおうかがいできればと思います。（亀田）←十分
- ⑨ 2028年まで時間制と単位制が混在する運営は、国や都、区への事務的な報告が大変かと思います。また、大学と同様に単位制に移行した場合、在学期間途中での学則変更は受付られないと思います。カリキュラムの作成上、2年3年先の技術を見極めるのは難しいと思います。（大曾根）←十分
- ⑩ 少し難しいかと思いますが、学力維持・向上につながると思います。（田野）←十分
- ⑪ 学科であいまいになってしまっていたので学校で統一していただけるとありがたいです。（埜村）←十分

2. DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」

評価結果	十分：28 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① DenshiVision2030、非常に今後が楽しみで期待しております。よろしくお願いいたします。(伊藤) ←十分
- ② 専門学校を取り巻く問題は多くなっていると思いますが、企業からすると期待も大変多いです。5年の中期計画を踏まえ、ますますの発展を期待します。(鈴木) ←十分
- ③ 留学生が3割いるとのことで、今後も増える可能性があると思います。日本学生のコンピテンシー傾向からも、グローバルな取り組みが増えると良いなと感じました。(後藤) ←十分
- ④ 今後の中期計画については、できれば5年よりも3年中期にして、社会情勢や業界を取り巻く環境など、激しい変化に対応していく方が良い気もします。単位制の導入や、AIに代表される未来のITのあり方など、こまめな検討を重ねてはどうでしょうか。ただあくまで、長年クリエイティブの会社経営に携わってきたものとしての個人的な意見ですが……。ともあれ、日本電子さんの特性を最大限活かした取り組みが今後も実施していかれることを切に願います。(木下) ←十分
- ⑤ カリキュラム編成に伴いさまざまな課題があるかと思いますが、それらを丁寧に拾い上げながら、着実に中長期的な発展を見据えて取り組まれていると感じました。(宮内) ←十分
- ⑥ 少子化に伴い、毎年日本人の入学対象者数は少なくなっていく現実に対し、対象を拡大すべく既卒・留学生へ目向けるのは必然だと思います。3000人の生徒を運用するためのコスト自体の見直しもするのもありかと思いました。(満岡) ←十分
- ⑦ 検討テーマとして1 学習環境の改善 2 学生サービスの向上 3 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」 4 学生募集の強化など、非常によく理解できました。特に校長先生の「学生へのサービス向上を目指す」「教育の質の保証・向上に終わりはない」という言葉に貴校の姿勢が表れていると感じました。「入学者の確保は、社会への貢献につながる」との考え、素晴らしい学生を輩出し続けてください。(舟山) ←十分
- ⑧ 「Denshi Vision2030」のアンケートの依頼があったのですが、回答の仕方が分からず失礼しました。本日の教育上のテーマ「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」の説明を受け、教育関係の取り組みについては、2030年時の成果に期待します。(大曽根) ←十分
- ⑨ 時代の変化に合わせての取り組み「日本電子らしさ」を失わず基本に進化成長は素晴らしいと思います。(田野) ←十分
- ⑩ 10年間では世間が大きく変わってしまうため中期計画をあげているのはとても良いと感じました。(埜村) ←十分

・総合評価【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① このたびはご丁寧なご説明を賜り、誠にありがとうございました。学生の方々が外部の大会でご活躍されていること、また御校自体が表彰を受け、高く評価されていることにつきまして敬意を表します。また、今後の単位制につきましても、「日本電子らしさを損なわない」という明確で力強いメッセージのもとでご推進されていることに、大変感銘を受けました。DenshiVision2030 をはじめとした、御校のさらなるご発展と未来に向けた取り組みを心より期待しております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。（伊藤）
- ② すでに対応されているかもしれませんが、学校側がどのような想いで対策されているのかなど学生と話をする機会があると、学生の声も吸い上げ、今後に活かせるのではと感じました。（後藤）
- ③ 改善というわけではありませんが、単位制への移行にかかる授業のあり方についての具体策の行方を知りたいところです。それ以外は特にありません。（木下）
- ④ 情勢を踏まえながら新しいことを検討・取り組みつつ、「日本電子らしさ」を大事に、学生が能動的に楽しく実践的な学習ができる環境づくりを今後も期待しています！（佐々木）
- ⑤ PROG を使ったコンピテンシー、社会人基礎力の可視化について、他校との比較は必要なのか疑問を感じました。まずは自校のビジョンから強みとなるべく事項を明らかにして、それを実現できているか可視化し、施策を検討するものと考えました。偏差値的に近いところ、コンペティタとなるようなところとこの診断結果を比較するよりも、まずは自校の戦略で強化すべきところに注力すべきと考えました。偏差値で競走する時代でなくなった現在、社会人基礎力などについても、数値としての比較論で考えるのは、自己満足的な施策のように思いました。ゲームショウに30年連続で出展したことなど、日本電子の実績を踏まえた強みを伸ばす施策を期待します。（渡邊）
- ⑥ 各項目について丁寧にご報告くださりありがとうございました。学生さんへの細やかなケアを行いながら、カリキュラムの検討やITツールの運用、外部との連携まで活発に取り組まれており、学びのチャンスが非常に多い環境だと感じました。これだけ素晴らしい環境が整っているからこそ、学生さんには主体的にどんどん挑戦して行ってほしいと思いました。引き続き、主体性を伸ばすご指導をお願いできれば幸いです。当協会からも様々なサポートをさせていただければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。（宮内）
- ⑦ まだ2回目の参加で学校のことはよくわかりませんが、学生のメンタルケアについても考慮いただくといいのかなと思いました。（中野）
- ⑧ いつも中身の濃いご報告ありがとうございます。教職員方の日々の努力と活動に身を引き締める想いです。（満岡）
- ⑨ 少子化で入学生の確保も大変な時期だと思います。企業同様、専門学校も「優勝劣

敗」が明確になってくると思います。ただ貴校に関しては、会に参加させていただいて「考え方」、「行動」がともに素晴らしく「持続可能な学校」であると思っており、今後も学生様、社会のため頑張ってください。（舟山）

- ⑩ 日本電子らしさ = 「就職に強い、面倒見が良い」を生かした環境変化の対応が実施、計画されていると感じました。今後も引き続き期待しております。（谷）
- ⑪ 地元の人間として今年祭礼に参加していただきありがとうございます。来年以降もぜひ参加していただきたいと思います。（原田）
- ⑫ 3年間お世話になりました。学校運営に関する貴重なお話を聞けて、ありがたく思っております。今後の益々の発展を期待しております。ありがとうございました。（岸本）
- ⑬ わかりやすい説明、スムーズな進行、さすがだなと思いました。誠実・堅実な向き合い方、子供達のお手本になる、頼りになる学校・先生方だと感じました。（田野）
- ⑭ 資料が見やすくなっており、分かりやすかった。（森下）
- ⑮ 8号館4階のトイレのウォシュレットが壊れていました。どこに伝えればいいのか分からず、すみません。（岩永）

IV 令和7年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和7年12月1日（月） 15：00～17：00

場 所：日本電子専門学校 メディアホール

学校関係者評価委員：

名 前	所 属（役 職）	区 分
鈴木 周祐	株式会社スタジオぴえろ （管理本部 人事総務部 統括課長）	企 業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション （第4研究開発室 室長）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー（顧問）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
伊藤 好宏	JTP 株式会社（技官）	
宮内 舞	CG-ARTS（教育事業部 教育推進グループ）	職能団体
舟山 大器	一般社団法人 PV プランナー協会 （EMA 認定センター センター長）	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部 人財交流委員会）	
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構（理事）	
西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部 （事務局長）	
中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会 （管理課課長）	
横田 えりか	株式会社ウィザス（第一学院高等学校） （教育運営部 キャリアサポートセンター 室長）	高校教員等
品田 健	聖徳学園中学・高等学校 （Program Coordinator）	
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部）	日本語学校

谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (ソリューション総括本部 プロジェクトマネージャー)	卒業生
大曾根 良孝	日本電子専門学校同窓会 (理事)	
高橋 美登里		保護者
岸本 美香		
岡本 忠司		
田野 滋子		
森 清子		
下園 紗月	アニメーション研究科 (2 年生)	在校生
森下 晴紀	情報処理科 (2 年生)	
岩永 礼矢	高度情報処理科 (2 年生)	
伊東 凜	学生自治会 会長 (ゲーム制作研究科) (2 年生)	
小倉 昊太郎	ゲーム制作研究科 (1 年生)	
葛巻 沙織	CG 映像制作科 (1 年生)	
埜村 萌花	ネットワークセキュリティ科 (1 年生)	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
杉浦 敦司	校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長
高橋 陽介	学事部 部長

進行：

- | | | |
|-------|-------------------------------------|----------|
| 15:00 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 杉浦 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 15:20 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（鈴木委員） |
| | 6. 令和7年度 教育重点項目 前期実績報告 | |
| | 学校の近況報告 | 杉浦 |
| | NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた | |
| | 「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)学生主導で社会人基礎力を養う | |
| | キャリア教育の充実 | 井上 |
| | (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討 | 五十嵐 |
| | (4)遠隔授業の標準化・質保証と | |
| | 先端テクノロジーの利活用 | 大川 |
| | 教育全般の重点事項 | |
| | (5)学校教育法の改正に伴う単位制への移行 | 大川 |
| | (6)DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと | |
| | 新たな未来」 | 杉浦 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 16:30 | 7. 意見交換 | |
| 17:00 | 8. 終了 | |

全体会自由意見

自由意見：

前期実績報告の評価（十分・不十分）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【（企業／ゲーム）株式会社ファンコーポレーション 後藤様】

詳しくご報告いただけてとても精力的にやられていることや、準備されていることがよくわかった報告内容だったと思います。いくつかお伺いしたいのですが、「遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用」でナレッジベースの運用状況について、ナレッジがどんどん溜まっていくことはとても良いと思うのですが、今年減っていった理由はどう考えられていますか？

【大川部長からの回答】

ナレッジベースへの投稿数が減少している点については、さまざまな面で運用が少し安定してきたことが理由ではないかと考えております。特に、オンライン授業で活用できるツールの紹介や、生成 AI にこう問いかけると授業で使えるこうした結果が得られる、といった投稿は、去年は多かった印象があります。しかし現在は、それらのツールや生成 AI の活用方法が実際の授業で定着してきており、投稿が減っている一因になっていると見ています。ただし、現時点では詳細な分析までは行えていない状況です。

【（企業／ゲーム）株式会社ファンコーポレーション 後藤様】

最後に「学修成果の再設定プロジェクトのディプロマサプリメント(仮称)」について、個人の成績を詳しく出していただけるとのことですが、課題は汎用的な課題を出されるのでしょうか？それとも、個人に特化した課題を出されるのでしょうか？

【杉浦校長からの回答】

シートに記載される課題については、学生の学修成果が予定より伸びているか、あるいは伸び悩んでいるかが可視化される仕組みになっています。プログラムやデータベースなど、さまざまなカテゴリーがありますので、学生ごとに課題があればその点を指摘しますし、順調に成長している場合には「特に課題はありませんので、これまでどおり学修を続けてください」といったコメントを記載するなど、個々の状況に応じたフィードバックを行う予定です。

【（企業／ゲーム）株式会社ファンコーポレーション 後藤様】

基準があって個人に対してシステムの的にその課題を出しているのではなく、基準の中で個々に沿った課題を記載されているということよろしいですか？

【杉浦校長からの回答】

成績表、いわゆる科目ごとの成績は S・A・B・C の4段階で評価されますが、この評価がまず基準となります。クラス平均と比較することで、自分が上位にいるのか、下位にいるのかが分かります。平均より上であれば順調に学修が進んでいると判断できますし、下回っている場合は何かが不足している可能性があります。そのため、成績評価をもとに、必要な課題が算出される仕組みになっています。

【(企業／デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

一点お聞きしたいのですが、先ほどの各個人の評価の部分について、数値的に見やすくなると思うのですが、デジタル化すると少し冷たい評価になりそうな気がします。今後、ハートの問題もあると思うのですが、多少補うようなことがあるのか、なにか実施を検討されているのかお聞きできればと思いました。

【杉浦校長からの回答】

学修成果の可視化の目的は、学生の学習に対するモチベーションを維持・向上させることであり、「自分は駄目なのではないか」と受け取られることは本意ではありません。そのため、機械的にすべての情報を提示すれば良いとは考えておらず、運用しながら適切な形に調整していく必要があると考えています。また、コメントを記載する際には、次に何をすれば上達につながるのかという“次のステップ”を示すような内容を意識し、学生が前向きに取り組めるフィードバックを心がけています。

【(職能団体／CG・映像) CG-ARTS 公益財団法人 画像情報教育振興協会 宮内様】
ツールを活用してベストプラクティス集の共有や、先生方の横の情報共有も盛んにされていて、非常に積極的でさすがだと感じました。一点質問ですが、単位制への移行について、三年制の学生さんもいらっしゃるということで、完全に移行となるタイミングは2028年かと思います。この移行期間中、不安に思われる方も多いかと思いますが、学生さんに対して説明の機会も設けられる予定でしょうか？

【大川部長からの回答】

単位制への移行については、2026年4月に入学される新入生の皆さんに向けて、入学案内では時間制のみを示していた部分を、どのように単位制へ移行するのか分かりやすく説明できるよう、新入生全員に配布する「学園生活ガイド」に記載していく予定です。単位制へ切り替わる時期には、不安を感じる方もいらっしゃると思います。しかし、先ほどお話ししたように、本校が大切にしている“面倒見の良い教育”という姿勢は変わりませんので、学びの本質が大きく変わることはないと考えています。とはいえ、不安を抱かないよう、学生の皆さんには丁寧に説明し、しっかり理解していただけるよう努めてまいります。

【(職能団体) 東京商工会議所新宿支部 西郷様】

学生がさまざまな大会で大きな成果をたくさん出されておりまして、学生方の実力や

専門性の高さを示しているものだと思います。学校の教育方針や取り組みの成果が非常にわかりやすく表れたものだと非常に関心をしたところでございます。もう一点、単位制への移行は簡単ではないということを感じたところです。日本電子専門学校らしさを損なうことなく、着実に歩みを進めていただければと思っています。それによって、学校のブランド力を一層向上させていただければと思います。

【(卒業生) 大曾根様】

冒頭、杉浦校長から「教育の質保証・向上」の中でご説明のあった「大学の入学資格と同様」という点について、可能な範囲でご紹介いただけるとありがたいです。今日の説明の中で折に触れ出てきていたかと思いますが、単位だけの話にやや集約されていたような部分があり、補足していただければと思います。

【杉浦校長からの回答】

入学資格については法律上の改訂が行われますが、実質的に大きな変化があるかという点、ほとんど変わらないというのが結論です。これまでは、高校までの12年間の教育を受けていることが前提となっていました。日本では小学校6年・中学校3年・高校3年の計12年間で、この修了をもって大学や専門学校への入学が可能となっています。一方、海外では国によって教育年数が11年間の場合もあります。そのような場合、12年間の教育をどのように認めるかについては、学校側で判断できる場合があります。本校にも海外出身の方が多く、国によって日本と同じ教育制度ではないケースもあります。また、専修学校には本校のような専門課程のほか、高校レベルの「高等課程」、中学校レベルの「一般課程」があります。これまでは、高等課程を3年間修了すれば専門課程に進学できましたが、文部科学省が認定した高等課程でなければ大学には進学できませんでした。今回の改訂では、この点を専門学校でも同様に扱うこととなります。対象となる方は多くありませんが、場合によっては高等課程を修了して専門学校に入学してきた方が、文部科学省認定の高等課程でない場合、入学できない可能性が生じます。これが今回の変更点の大きな部分です。ただし、該当する方は多くないと考えています。もし該当する方がいらっしゃった場合には、丁寧にご説明する方針です。

【(卒業生) 大曾根様】

もう一点だけ伺います。入学試験について、専門学校が大学と同様の扱いとなっても試験を実施することは非常に難しいと思いますが、その点について国から法律上の制約や規定等はあるのでしょうか？

【杉浦校長からの回答】

法律上は、先ほどお伝えした入学要件のみが定められており、選考方法についての指定はありません。したがって、試験を実施しても構いませんし、試験を行わず別の方法で選考しても問題ありません。本校では書類選考を主な方法としており、提出いただいた書類を基に確認を行い、入学可否を判断しています。今後は、学科によって試

験を実施することも可能になります。大学でも、試験を行うところがあれば、書類のみで入学を認めるところもあり、その点は各学校が独自に決められる仕組みです。

【(地域住民) 百人町西町会 原田様】

今年、学生さんが祭礼に参加していただき、今までそういう関係がなかったので、会長として嬉しく思っております。総代会でもかなり評判がよく、これからもずっと続けていてもらいたいと思います。ただ、来年は鉄砲隊が出陣しませんので、地元のお祭りだけでしかないのですが、留学生や学生さんには貴重な体験になると思いますから、これからも長いお付き合いを是非よろしく願いいたします。

【(ご父母) 岸本様】

専門学校を選ぶうえで就職に強い、面倒見が良いというところは特に親としては非常に魅力的で、来年度単位制への移行等もあり、親御さんも不安な面があると思うのですが、日本電子さんらしさを損なわないというお話を今日何度も聞けて非常に安心しました。これからも一人一人の学生さんをよく見ていただけるとありがたいと思います。

【(ご父母) 田野様】

私たちでもわかるようなお話の内容でしたので、とてもわかりやすく助かりました。子どもたちにいろいろな挑戦をさせてくれているということもすごく素晴らしいと思いましたし、子どもたちが卒業してもずっと進化して、子どもたちを教育してってくれる学校であってほしいです。日本電子らしさで、らしさを損なわない学校でいてほしいと思いました。

【(在学生) 下園様】

単位制等いろいろありますが、学校で自治会にも所属しているので、取り組みしていることなど、きちんと私たち生徒と活動などが評価されているようで嬉しいと思いました。今後もこの学校がより良い感じで進んでいけるのではないかと思います。

【(在学生) 伊東様】

学生自治会としてもクラス委員からの意見や地域貢献等もっともっと増やして行って学校の運営やこの運営により参加できていけたらと思います。

【(在学生) 森下様】

私は今年で卒業してしまうのですが、この資料を見て来年も再来年もどんどんどんどん学校が成長していくのだと感じました。素晴らしいなと思いました。

【(在学生) 葛巻様】

情報処理科ディプロマサプリメントがとても気になっていて、私自身、前期の成績表が出たときにこういった点がダメでこの評価になったのかとても気になっていたので、

この成績を細分化していただけるのはとても良い取り組みなのではないかと思いました。

【(在学生) 埜村様】

私たち学生のために様々な計画を立てていただいていることとても嬉しく思います。私も学生として少しでも学校づくりに貢献できればと思っております。

【(在学生) 小倉様】

私も PROG で自身の能力について知りえる機会ができるというのはとても助かっている、こういった活動はどんどん続けてほしいと思いました。

【(企業/アニメ) 株式会社スタジオぴえろ 鈴木様】

対面参加の皆さんからさまざまなご質問をいただき、大変参考になったと感じています。先ほどの葛巻さんのお話にもあったように、学修成果が可視化されたことで「とても参考になった」という声を伺えたことは、現在日本電子さんが取り組まれている方向性にしっかりフィットしている証だと感じました。一方で、ジェイスリーの木下様がおっしゃっていたように、可視化がもたらす影響は非常に重要だと私も考えています。私自身、人事の仕事にも携わっており、人事考課では評価表がシステムティックに運用され、社員へ査定結果が通知されます。通知前は「評価を知りたい」「自分の至らない点を教えてほしい」と皆が口を揃えて言うのですが、いざ結果を通知すると、途端に「納得できない」「会社がどう考えているのか分からない」といった声が出てきます。まさに木下様がおっしゃった“ハートの部分”、つまり査定結果をどう伝えるか、社員とどうコミュニケーションを取るかが最も重要なポイントだと痛感しています。葛巻さんがおっしゃったように、学修成果が見えるようになることは嬉しい反面、その後それをどう自分の学びに活かしていくのが大切です。杉浦校長も触れていましたが、情報がどれだけ発展しても、人と人が向き合う姿勢こそが最も重要なポイントだと思います。その部分をより一層大切にしながら、ぜひ取り組みを進めていただければと感じました。また、単位制への移行は本当に大変なことだと思います。本日のご報告を伺い、日本電子さんがどれほど時間をかけて学生の教育に向き合っているのかを改めて実感しました。これは、私たち企業が採用するうえでも「日本電子さんなら安心できる」と感じる大きな理由です。単位制になることでバランスが難しくなる面もあると思いますが、単位制ならではの柔軟性を活かし、学生が就職に向けて「自分に本当に必要な学び」を選び取るきっかけとしてうまく機能していくことを期待しています。中期計画についても大変楽しみにしております。今後の取り組みをぜひ頑張っていただければと思います。